

⑰ リンゴ初生りの碑



明治 10 年 (1877) 8 月に初めて西洋リンゴが実ったといわれている私邸跡地 (山野茂樹邸) が、現在の弘前大学医学研究科敷地であったことから、同地にリンゴ産業の歴史的足跡を顕彰するため、大黒松小公園内に「リンゴ初生りの碑」が建立されました。碑の表面には、「山野家記」に記されているリンゴ 3 個が初生りしたという記録、裏面には由来文が刻まれています。

平成 23 年 (2011) 10 月、農学生命科学部の「国際リンゴフォーラム in 弘前」の開催を記念して、青森県の基幹産業であるリンゴに関する記念碑が二基造られました。その一つがこの「リンゴ初生りの碑」で、もう一基は農学生命科学部敷地内に建てられた「島善鄰顕彰碑」です。



〔引用文献〕

1. 弘前大学医学部三十年史編集委員会（編）（1976）. 弘前大学医学部三十年史, 735.
2. 農学生命科学部ホームページ, <http://nature.cc.hirosaki-u.ac.jp/2011/11/01/1456>

（表面の碑文）

一、西洋リンゴ当年三年目ニ而初テ実結ヒ、今日ミノ大サ糸ニ而マハシ見候処左ニ大ノ方七十二分余廻り中ノ方六寸九分廻り小ノ方六寸五分廻り、イマタ熟シ不申

明治十年第七月三十日也

一、八月十五日リンゴ取、大ノ方目五十八匁、中四十九匁二分、小三十九匁但し小ノ方青森勸業二課江差送候事、周囲大八寸八分中八寸二分（山野茂樹の手控帳より）

（裏面の碑文）

明治八（一八七五）年勸業寮から配布された西洋リンゴの苗木から、明治十（一八七七）年、弘前市相良町の山野茂樹邸内（現弘前大学医学研究科敷地内）において、「紅魁」（原名「アストランカン・ルージュ」「山野早生」）三個が初生りした。

在来種に比して大きく、美味なことから、「西洋リンゴ」への関心は急速に高まり、津軽リンゴ産業

発展の嚆矢となる。

平成二十三（二〇一一）年十月十四日「国際リンゴフォーラム in 弘前」を記念して建立